

# ポスト「コロナ」イノベーション

Post COVID-19 Innovation

2

## 技能実習と雇用再構築

### 急場凌ぎだけでは済まない受け入れ現場

外国人技能実習制度は日本農業に数々のイノベーションをもたらしてきた。そんななかで見舞われたコロナ禍。現場は深刻な労働力不足に陥った。多くの産地は他産業から人材を確保して急場はどうか凌いだように見える。とはいえ問題は先送りされた。雇用面での再イノベーションが求められるだろう。

(取材・文／八木誠一)

外国人技能実習制度は1993年に創設された。農業が対象職種になったのは2000年。以来20年、この制度は日本農業にいくつものイノベーションをもたらした。まずは営農規模拡大。実習生を入れた農家と、そうでない農家とでは規模にかなりの差が出てきている。作業形態にも変更や工夫が加えられた。家族農業から雇用農業への意識変革も実習生制度の影響が少なくない。後継者のいない農家の営農継続を一方で支えたのも実習生だった。ある程度高齢化しても営農継続できるようにもなった。

う。外国人の単純労働が認められていない日本で実習生は、その「抜け道」として機能してきた。農家も、安価な労働力だからこそ受け入れてきた側面は強い。

昨年までの数年は4000人ペースで前年を上回ってきた。実習生依存度が最も高い茨城県では、農業雇用の20人に1人、20代に限れば2人に1人が実習生で占められるほど

急激な人手不足

マッチング

活用可能

自治体・JA・民間業者によるマッチング支援  
法務省による雇用維持支援(在留資格の特例措置)

他産業の日本人従事者  
技能実習生など

農業労働者計約90万人が入国できない事態に。EUは入国制限を緩和

だが。続く長野県や群馬県でも比率は下がるものの、同様の傾向が進んでいる。

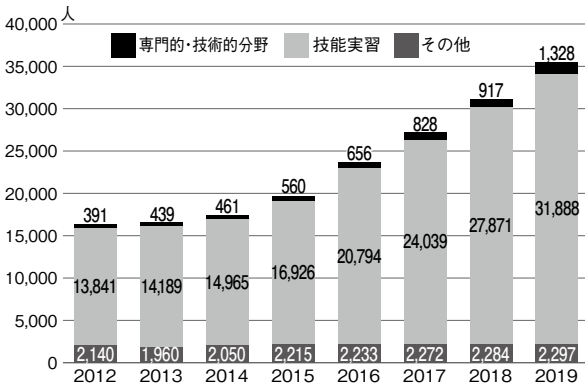
こうした動向にショックを浴びせたのがコロナ禍だった。予定していた実習生の入国見通しが立たない。その数は4月から5月にかけて1900人↓2400人↓2700人と、情報収集が進むにつれて増えつづけた(江藤農水相記者会見での発表データ)。実習生に頼る農業現場では、対応におおわらわらとなった。

ちなみに、日本より遥かに外国人労働者に頼る西欧でも状況は変わらない。英仏独伊では、東欧などから

### 不可欠の人材がいなくなったとき

実習生が不可欠となっている現状は誰しもが認めざるを得ないだろう

農業分野の外国人雇用状況



出典：厚労省「外国人雇用状況の届出状況」(各年10月末現在)をもとに作図  
注：ちなみに農業分野の特定技能は2019年10月末現在119人(うち最多は長野県14人、熊本県10人)。コロナ以前の段階でも、技能実習からの移行は目標の足元にも及ばない。

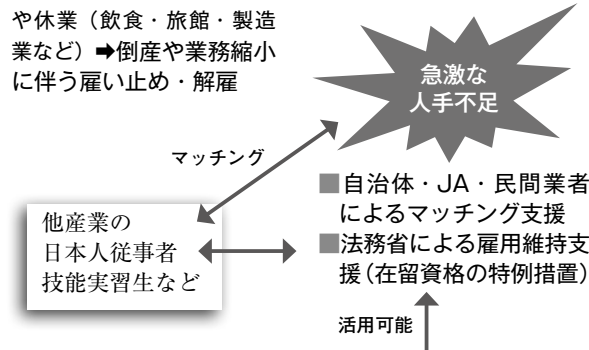
### コロナ下の農業労働力不足をめぐる状況

#### 他産業

供給ラインの混乱や従業員感染による操業停止、感染拡大防止に向けた営業自粛や休業(飲食・旅館・製造業など)→倒産や業務縮小に伴う雇止め・解雇

#### 農業

出入国制限により、技能実習生などの来日スケジュールが混乱



### 農業労働力確保緊急支援事業(46億円)

新型コロナウイルスの影響により人材不足となった農業経営体に対し、代替人材を確保するための掛かり増し経費を助成(下記金額は上限)。対象期間は2020年4月1日~同12月31日。

- 交通費=3万円/月
- 宿泊費=6,000円/泊
- 保険料(雇用主負担分)=実費
- 労賃=500円/時

したが、各国政府は国内人材への切り替えを図った。フランスの「偉大な農業軍」キャンペーンには20万人以上の応募があったらしい。米国からはメキシコ人を中心に外国人労働者25万人の対応に苦慮している様子が伝わってきている。

**外国人雇用は国際競争の時代になる**

実習生を受け入れている産地では3月ごろから代替人材確保に動きはじめる。4月になると、法務省入管当局は、特例とはいえタテマエを放棄せざるを得なくなった。決められた業種以外での実習（就労）などができるようになったのだ。農業労働力確保緊急支援事業として46億円の補正予算も組まれた。

農業関連の労働市場は大きく動いた。他業種からの雇用問い合わせが前年同時期に比べ2倍3倍となったJAも少なくない。同様に、農業求人サイトの登録者数も一気に増えた。農業者個人が独自ルートで手配した例はさらに多いだろう。

こうしてとりあえずの危機回避はおおむねできたように思える。しかし、課題の多くは先送りされた。すでに実習生たちはSNSなどでしっかり情報収集をするようになっていく。どこそこは賃金が高いとか、働

きやすいとか。しかも送り出し国の経済発展に伴って為替差益は少なくなってきた。もう買い手市場と

きやすいとか。しかも送り出し国の経済発展に伴って為替差益は少なくなってきた。もう買い手市場と

## 貴重な体験になった代替雇用活動

長野県のJA 佐久浅間組合員の実習生受け入れ農家から話を聞いた。高原レタスを中心に4ha経営。今年も予定していた実習生1人が来日できなくなり、対応に迫られることに。なお、同JA管内では中国人・ベトナム人合わせて100人近い実習生が来日できなくなった。

.....

### マッチングとバッティング

地元では、実習生の来日の見通しが立たなくなった時点で対策を打ちました。3月ごろからです。ハローワークと協同で雇用説明会を開いたり、民間の求人サイトに出したり。でも、他の職種で解雇や休業があった時期はだいたい同じでしょう。そうした人たちを目当てにすると人材の奪い合いになる。どうしても来てもらおうとすれば当然時給も上げざるを得ない。ハローワークからは、そんな時給じゃ誰も来てくれないと怒られたほどです。実際、求人に当たっては、それまでより割高な賃金を提示しました。

こちらから求人するだけでなく、人材派遣会社などからは売り込みもありました。ハローワークも含めて応募の問い合わせはたくさんありました。でも、条件に合う人がすぐに見つかるわけでもない。この調子ではむずかしい。

同じJA管内の軽井沢では地元の旅館組合と連携して人手確保を図りました。白樺湖の観光施設なども連絡をとりました。もちろん各農家も並行して手を打っています。大学生の息子をあてにしたり、個人的なつてを頼ったり。わたしの場合は知人を通

じて、いい人に巡り合うことができました。

### 想像力が鍛えられた

これまでの経験から、実習生はいちばん安定した労働力だと思っています。日本人のパートやアルバイトより安定度は高いのではないかと。安定しているからこそ売り上げを伸ばすこともできる。

日本人を雇う場合、まず数ある職種のなかから農業が選ばれるかどうか。採用できたとしても短期間となると、どうしても熟練度は落ちる。しかも期間途中でやめてしまう可能性も実習生より高い。実習生は明確な目的をもって日本にやってきて期間通して働いてくれる。若いから体力もある。

今回はいい経験ができたと思っています。これまでは人を選ぶなんてことはしてこなかった。それが必要に迫られていろんな人と関わりをもった。何となく流してきた仕事を踏み込んで考えるようになった。想像力も鍛えられました。人より早く動く大切さも知りました。後手後手だと人材も残り物になってしまうから。

今後実習生がどうなるかはわかりません。ホンネを言えば「8月になってから来られてもなあ」。実習生が来てすぐに作業ができるわけではない。講習期間もありますし、高原レタスの収穫期は11月までですから、ちょっと働いてすぐ終わり。受け入れ側も実習生も納得いかないケースが出てくる可能性もある。もめるかもしれません。今回のような事態は初めてですから、行政の対応も含めて見守っているところです。

はいえない。受け入れ側は選んでいただく立場になった。その意味で農業人材獲得には国際競争力が問われることになる。労働環境整備とともに、さらなるイノベーションが求められる情勢となった。